古墳時代

名前

問1　5世紀の日本各地における古墳の分布状況を見ると、近畿地方で誕生した特定の形式の古墳が、九州から東北地方までの広い範囲に築造されていることが分かります。この歴史的背景について説明した文として、最も適切なものはどれか。（2016年 神奈川県公立入試 類似）

1. 仏教の影響により、全国各地で国分寺が建立されるようになった
2. 狩猟・採集の生活から、竪穴住居に住む定住生活へと変化した
3. 大和政権の支配や政治的なつながりが各地に広がった
4. 墾田永年私財法の施行により、地方の有力者が荘園を形成した

問2　5世紀の日本において、倭の五王と呼ばれる王たちが中国の南朝へ繰り返し使節を送った目的として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 長野県公立入試 類似）

1. 沿岸部で活動し周辺諸国を苦しめていた倭寇を取り締まるよう、中国から要請を受けたため
2. 平城京を造営するためのモデルとして、中国の都の仕組みを詳しく調査するため
3. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利するための軍事同盟を、中国の王朝と結ぶため
4. 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため

問3　5世紀ごろに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、このような大規模な墳墓が築かれた歴史的な背景として最も適切な説明はどれか。（2020年 三重県公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった稲作の技術を普及させるために、神を祀る祭祀場を各地に作ったため。
2. 仏教の伝来とともに、死者を弔うために巨大な寺院を建てる習慣が広まったため。
3. ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。
4. 各地域の小国が、他国からの侵略を防ぐための軍事的な要塞として築いたため。

問4　古墳時代に、大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築造された歴史的な背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）

1. 大規模な稲作の普及により余った土地を、洪水から守るための避難場所として整備するため。
2. 大陸から伝来した仏教の教えに基づき、故人を盛大に供養することで国家の安寧を祈願するため。
3. 海外からの侵略を監視し、防衛するための軍事的な物見櫓や要塞として機能させるため。
4. 大和政権（ヤマト王権）の王が、自らの強大な権威や動員できる労働力の大きさを各地の豪族に誇示するため。

問5　航空写真などの上空からの視点で見ると、前方部が方形（四角形）、後方部が円形をしており、全体として巨大な鍵穴のような形状をしている日本独自の古墳の名称として適切なものはどれか。（2020年 佐賀県公立入試 類似）

1. 円墳
2. 前方後円墳
3. 方墳
4. 八角墳

問6　世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群には、5世紀頃に造られた日本最大の前方後円墳である大仙古墳が含まれている。このような巨大な古墳が築かれた時代の外交の特徴として、適切なものはどれか。（2020年 香川県公立入試 類似）

1. 中国の南朝へ使者を送り、自らの地位を認めてもらう活動を行った。
2. 中国の北朝へ使者を送り、仏教を公式に伝えるよう要請した。
3. 元（モンゴル）からの服属要求を拒否し、九州沿岸の防備を固めた。
4. 唐へ遣唐使を派遣し、律令に基づく中央集権的な国家体制を導入した。

問7　「大陸の王朝の力を利用して国づくりをはじめた」とされる5世紀の倭の王について、当時の国際情勢と外交方針を述べた文として正しいものはどれですか。（2017年 長野県公立入試 類似）

1. 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた
2. 聖徳太子が遣隋使を派遣し、中国の皇帝と対等な外交関係を築くことを目指した
3. 元（モンゴル帝国）の侵攻に備えるため、高麗と協力して大陸の情報を収集した
4. 足利義満が明の皇帝から「日本国王」の称号を得て、勘合貿易を開始した

問8　中国の歴史書『宋書』倭国伝には、5世紀に中国の南朝へ相次いで使者を送り、自身の地位を認める称号を求めた「讃・珍・済・興・武」という5人の王が登場します。これらの王を総称して何と呼びますか。（2025年 埼玉県公立入試 類似）

1. 遣隋使
2. 渡来人
3. 倭の五王
4. ヤマトの大王

問9　中国の歴史書である『宋書』倭国伝には、5世紀に倭（日本）の王が南朝へ使いを送った「倭の五王」の記録があります。このうち、国内の稲荷山古墳（埼玉県）から出土した鉄剣の銘文に記された「ワカタケル大王」と同一人物であると考えられている王の名称として正しいものを選びなさい。（2019年 愛媛県公立入試 類似）

1. 倭王 済
2. 倭王 讃
3. 倭王 珍
4. 倭王 武

問10　古墳時代における渡来人の移動と技術伝来が、当時の日本列島の社会に与えた影響について述べた文章として、最も適切なものはどれですか。（2025年 岩手県公立入試 類似）

1. 青銅器と鉄器が同時に伝わり、金属器を使った道具の製造が初めて行われた。
2. 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。
3. 大陸からの技術移転により、日本列島で初めて米作り（水稲耕作）が始まった。
4. 全国に国分寺や国分尼寺が建てられ、仏教を中心とした国家体制が完成した。

問11　3世紀ごろ、倭の女王である卑弥呼が使いを送った中国の国と、当時その国と勢力を争っていた国の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2016年 和歌山県公立入試 類似）

1. 魏 —— 呉・蜀
2. 隋 —— 陳・北周
3. 唐 —— 吐蕃・新羅
4. 秦 —— 楚・斉

問12　古墳時代の日本列島では、海外から高度な技術や文化を持つ人々が移り住み、社会の発展に大きな影響を与えました。高温で焼く硬い灰色の土器である「須恵器」の技術を日本に伝えた、朝鮮半島などから移住してきた人々を何と呼びますか。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 地頭
2. 遣隋使
3. 渡来人
4. 防人

問13　4世紀から6世紀ごろにかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、当時の日本に欠けていた高度な技術や文化を伝えた人々を何と呼びますか。（2023年 新潟県公立入試 類似）

1. 渡来人
2. 御家人
3. 遣隋使
4. 防人

答え合わせ・解説

問1	答え 3 大和政権の支配や政治的なつながりが各地に広がった	近畿地方の大王（後の天皇）を中心とする大和政権が、各地の豪族と政治的な同盟や支配関係を結んだことで、勢力の象徴である前方後円墳という同じ形式の古墳が共有されるようになりました。国分寺は8世紀の奈良時代、荘園の拡大は平安時代以降、竪穴住居は縄文・弥生時代からの住居形式であり、5世紀の古墳時代の動向を説明するものではありません。
問2	答え 4 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため	5世紀の古墳時代、倭の五王は中国の南朝に朝貢しました。当時の倭の王は、大陸の強大な王朝から「倭王」としての称号（冊封）を得ることで、自身の権威を国内外に示すとともに、鉄資源の供給地として重要だった朝鮮半島南部における外交的・軍事的な優位性を確保しようと考えました。
問3	答え 3 ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。	大仙古墳のような巨大な前方後円墳の建設には、延べ数百万人とも言われる膨大な労働力と長い年月が必要でした。これほど大規模な墓を築くことができた事実は、被葬者である大王が近畿地方を中心として、広範囲にわたる民衆や地方の豪族を統制し、支配下に置いていたことを証明しています。
問4	答え 4 大和政権（ヤマト王権）の王が、自らの強大な権威や動員できる労働力の大きさを各地の豪族に誇示するため。	古墳時代において、巨大な前方後円墳を築くには膨大な年月と膨大な人数の労働力が必要でした。このような大規模な土木工事を行うことができた事実は、その被葬者が広範囲に及ぶ支配権と財力を持っていたことを象徴しています。また、前方後円墳という特定の形式が日本各地に広がったことは、大和政権（ヤマト王権）を中心とした政治的な連合や身分秩序が各地の豪族との間に形成されていたことを示しています。
問5	答え 2 前方後円墳	3世紀後半から6世紀にかけて、ヤマト政権の勢力下にあった地域で築かれた日本独自の形式です。大阪府の大仙古墳（伝仁徳天皇陵）に代表されるように、大規模なものは当時の有力者の権力を象徴しています。
問6	答え 1 中国の南朝へ使者を送り、自らの地位を認めてもらう活動を行った。	大仙古墳に代表される巨大な前方後円墳が造られた5世紀は、大和政権の王（倭王）が自らの権威を内外に示すために、中国の南朝へ朝貢した時期と重なります。この時期の外交は、朝鮮半島での軍事的な立場を強化し、鉄器の材料となる鉄資源の供給源を確保することが大きな目的の一つでした。
問7	答え 1 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた	5世紀の倭の王たちは、中国の南朝に使いを送り、皇帝から「安東大将軍」などの称号を授かりました。これは中国の国際秩序の中に組み込まれることで、朝鮮半島南部での自国の影響力を正当化し、他の諸国との交渉を有利に進める狙いがありました。他の選択肢は、飛鳥時代、鎌倉時代、室町時代の出来事です。
問8	答え 3 倭の五王	5世紀に中国へ使者を送った5人の王は「倭の五王」と呼ばれます。当時の日本（倭国）は、東アジアの国際情勢の中で有利な立場を得るため、中国皇帝を中心とした冊封体制（朝貢外交）に加わり、自らの権威や軍事的な指揮権を証明する称号（官職）を求めて外交を展開しました。
問9	答え 4 倭王 武	中国の南朝に朝貢した「倭の五王」のうち、最後に登場する「武」は、稲荷山古墳の鉄剣銘文にある「ワカタケル（獲加多支鹵）大王」と同一人物であるとする説が有力です。当時の倭の王は、朝鮮半島での軍事的な指揮権などを認めてもらうため、中国の皇帝から称号を得ようと外交交渉を行っていました。
問10	答え 2 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。	古墳時代に朝鮮半島から渡来人が移住したことで、須恵器の製造技術に加えて漢字、儒教、仏教、機織などの高度な文化や技術が伝わり、日本の技術や生活文化が飛躍的に発展しました。
問11	答え 1 魏 —— 呉・蜀	卑弥呼が使いを送った相手は、中国大陸の北部に位置した「魏」という国です。当時の中国大陸は、北部の魏、南東部の呉、南西部の蜀の三つの勢力が争っており、この複雑な国際情勢の中で、邪馬台国は魏との外交関係を築くことで自国の立場を安定させようとしました。
問12	答え 3 渡来人	朝鮮半島や大陸から日本列島へ移り住んだ渡来人は、須恵器の製作技術のほか、鉄器の加工、養蚕、織物、漢字や儒教といった高度な技術や文化を伝えました。これらの技術はヤマト政権の勢力拡大や、当時の有力豪族の経済力の向上に大きく貢献しました。
問13	答え 1 渡来人	朝鮮半島での戦乱を逃れるため、あるいは大和政権による招きに応じて日本列島にやってきた人々です。彼らは養蚕、機織り、金属加工、土木技術のほか、漢字や儒教、仏教といった学問や宗教も伝え、古代日本の国家形成に大きな影響を与えました。